

第4回 湖西市総合計画審議会 会議録（要旨）

開催日時	令和2年10月13日（火）15：00～16：30
開催場所	湖西市健康福祉センター 3階研修室
出席者	（委員）10人 （事務局）6人 （傍聴者）9人
内 容	
1 開会	事務局 企画政策課長あいさつ
2 会議	<p>池上会長：審議は、実践計画全体（体系図）の整合性の確認と、重点施策の整合性の確認の2つに分けて進める。</p> <p>①重点施策の整合性について</p> <p>※事務局から重点施策の選定背景について説明</p> <p>大石委員：臭気対策は、事業者の利益には繋がらず、また、事業者全体で取り組まないとその効果が見えないという課題があるが、市ではその点についてどのように考えているのか。</p> <p>事務局：現状では、既存の補助制度に加え、補助範囲の拡大など事業者の負担がなるべく掛からないよう県へ要望している。すべての事業者向けに100%の補助というのは市単独では難しいため、今後、県と調整を図っていきたい。</p> <p>大石委員：臭気に関する制度を作ることはいかがか。</p> <p>事務局：悪臭防止法で定める臭気指数に基づく規制を行っており、現在、数値の見直しを進めているところである。市独自の条例化については、担当課で検討する。</p> <p>竹島委員：市外からの通勤者約15,000人の内訳は分析しているのか。</p> <p>事務局：地域の分析に留まり、それ以上はない。市では、市内企業を介して移住に関する制度の情報発信に力を入れているが、分析は重要であり、ご意見を参考にする。</p> <p>加藤委員：分析は、公共交通施策にも共通する部分である。各企業が社員の情報は持っているため、商工会などを活用し情報収集するべき。そして「なぜ湖西市に住まないのか」など分析を進め、施策へ反映していくべきである。なお、公共交通では分析に向け動き始めたところである。</p> <p>中野委員：（資料1）施策10の基本事業に、産前（不妊治療などを含む）、出産に関する施策の記載が無いが。</p> <p>事務局：産後同様、施策は実施する。記載方法について、今後、担当課と調整する。</p>

中島委員：市の特色や誇りと言えば、ものづくりのまち、豊田佐吉翁生誕のまちであり、発明クラブが小中学生への意識浸透の役割を担っているが、その先がない。また県中・東部において、湖西市の印象が、そのように認識されていない。絵空事かもしれないが、発明クラブのその先に、ものづくりに特化した専門学校などを作れば、それをきっかけに若者が増え、市内企業就職の促進や人口増、まちの活性化など、さまざまな効果が期待できると考えるがいかがか。

加藤委員：市では、現在、ものづくりのまちとしての地域ブランドを確立させるために、計画検討を進めており、学校もそのひとつである。検討の中では、市内事業者の後継者不足問題について、単に後継者を育てるだけでなく、スタートアップという考えのもと、新しい事業も加えた上で事業継承できるような人材育成を目指すことも考えており、そういった発想を子ども達を含め、浸透させていきたいと考えている。

池上会長：豊田佐吉翁を将来の人材育成のブランドとし、湖西市に世界中から人材を集め、また湖西で学んだ人材を世界中に輩出していく。そういった壮大な夢を持つこともひとつ。県でも特色ある高校教育を目指しており、市内の高校をそういった方向に持っていくのも一案である。

池上会長：施策 22 については、市役所内部だけでなく外部に対する施策も視野に入れる方が良いと考える。例えば自治会の役員は現役で働いている人もおり、市と自治会のやり取りをデジタル化すれば現役世代も活動しやすくなると思われる。

事務局：外部に対する施策も検討はしているため、具体的になれば施策に入れていく。

中野委員：DXに期待するものとしては、手続きが自宅で行なえること。一方、デジタル化への対応に苦慮するであろう高齢者への対応も配慮して欲しい。

②実践計画全体（体系図）の整合性

中野委員：KPIを見ると、手段が目的になっているものもある。KPIについて見直しが必要と考える。

井川委員：施策 9 について、デマンドタクシーが休日にも利用できるようになれば、外出の際の駅までの交通手段など、利用度が上がるのではないかと。コーちゃんバスの存続も不安材料である。

加藤委員：市のBaaS事業が国の採択を受けたのは企業バスを活用するという点である。現状では企業側のメリットがないため、今後行われる実証実験を通じてアウトプットを増やし、活路を見いだしていきたい。

袴田委員：施策 14 について、子ども達へ大手企業だけでなく中小企業をもっと知ってもらえるような施策を展開して欲しい。

事務局：10/1から教育委員会に、企業と学校をつなぐコーディネーターを配置したため、そちらを活用できればと考える。

池上会長：子ども達へのアプローチとして、子どもは、そもそも製品自体が何なのかも

知らないことが多く、ただ見学してもあまり意味がない。よって、まずは物を知り、市内のどんな企業が作り、どんなシェアを占めているのか、どのように社会に役立っているかといったように、興味を持つような手法を取り入れるべきである。そういった意味で、企業側も子ども達に響くアピールポイントを考える必要がある。

加藤委員：子ども達に製品が何にどう使われているのかを、きちんと見て知ってもらうことが大切であり、最近、企業間でもそういった認識が出てきている。

池上会長：企業と学校の先生が交流する場があれば、企業見学がより良いものになる。

事務局：その役割をコーディネーターに担ってもらいたいと考えている。

加藤委員：コーディネーターを上手く活用できるよう行政側での舵取りが必要である。

白井委員：ものづくりのまちとして、専門学校などを作り、市内で学び、市内で就職に繋がるようなシステム作りができると良い。市内に高校が2つあり、それぞれに特色を持たせるのも一つ。

池上会長：（資料1の）調整中の項目については、こういった背景があるのか。

事務局：共通の成果指標が設定できないものや、調整が整っていないものであり、施策によっては2つの指標を設けるなど、今後、設定を進めていく。

二橋委員：商業に関する施策も記載して欲しい。

加藤委員：商業に関する施策については、すでに動き出している部分もあるが、商工会と市が協力してアンケートを集め、事業者が求めるものを把握し、それを施策に反映させていくことが大切である。市、議会、商工会、事業者のすべてが一致団結して行動していくことが望ましいと考える。

閉 会

○会議後に実施した事後調査における質問・意見

Q：施策4について、湖西病院の強化に関する計画の状況はいかがか。少しでも市からの繰入金を減額し、定住人口増加のための施策費用に活用して欲しい。

A：新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、思うように進んではないが、戦略監を設置し、経営改善のため計画を推し進めている。特に近隣病院との関連性を考慮し、回復期病棟を拡充し、利用患者数の増大を目指している。

Q：施策10について、待機児童解消に向けたこども園等の施設整備の計画はいかがか。少子化により園児が減少してきており、将来の運営に不安がある中で民間に施設整備を求めるには、補助制度を手厚くするなど事業者側への配慮が必要と考える。

A：民間主体でのこども園計画が2箇所あり、待機児童解消に向けて動いているところである。市の方向性としては、公立を減少させて民間主体へシフトしていく考えであり、当面、園児減少による各園の園児数の確保については心配がないと考える。

Q：施策16について、企業立地に関する具体的な計画はいかがか。

A：具体的ではないが、基本構想の中で計画を明記していきたい。

Q：市内に区画分譲予定地が 500 区画程度あると聞いたが、販売促進のために、不動産業者や金融機関等へ情報提供することは可能なのか。

A：その数は、住宅地として整備した箇所における空区画の総数であると思われる。よって、そのすべてが販売中であるとは限らず、販売中の土地であれば既に各事業者が把握していると推測される。

意：施策 11 の KPI の中に小中学校の老朽化が激しい現状が有るため、本件に関する内容も計画や進捗に入れてもらいたい。

意：施策 10 について、将来人口ビジョンで「希望出生率 1.8 をかなえる！」と謳うのであれば、出産に関する事業も重点基本事業とすべきではないかと思う。

意：施策 20 の中の事業 47 とその KPI の関係性について、郷土愛を持つことと湖西市へ来てほしいと思うことは必ずしも一致する訳ではないと感じる。KPI 自体は間違っていないと思うが、「郷土愛の醸成」が「観光振興」の手段として扱われていることに違和感がある。

以上